

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2023年12月1日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：64328人、高齢者人口：16531人、高齢化率：25.7%

【圏域の特徴】

東豊中、北緑丘と大きなUR団地が2つあるのが特徴であり、高齢者の入居率が高い。また北緑丘校区には今年から全548戸ある高齢者の複合施設が出来て順次入居もされ高齢化率が突出している。65歳以上の高齢者世帯の割合も市全体と比べて高くなっている。

圏域に駅がなく、市内中心部へのアクセスは路線バスを使わなければならない。地理的に坂道が多い圏域であり、またUR東豊中団地はエレベーターがないといった事情から外出しづらいといった課題を抱える高齢者が増える事が予想される。

取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

職員一人一台パソコンが支給されていることで、Zoomを活用したセンター、分室とのコミュニケーションを図れている。会議や申し送り、担当同士の打ち合わせがZoomを活用することで定期的に、必要時にいつでも開催できている。

【特に力を入れて活動している点】

現場で地域の民生委員、介護支援専門員、Drに積極的に情報交換を行った所です。地域の民生委員は校区のなんでも相談会、介護支援専門員はケアマネほっと2ヶ月に1度開催、Drはグリーンラボや、虹ねっこのメンバーに入って意見交換を行った事で現場の声を聞き、地域の課題や現場の課題等を共有しました。

その成果として、高齢部会やケアマネほっとの事例検討会、グリーンラボの中で包括の機関の説明を行った。

【活動中での課題やその解決策】

包括センターの機関自体はほぼみなさんご存じでしたが、具体的に包括センターってどんな事しているのか分からないといった声が専門職の方からも多く聞かれました。

解決策として包括センターの説明の際により具体的に事例を用いる等包括の動きや地域での活動の実際の詳細をお伝えしていきます。

総評

【特徴的な取組内容】

●ニーズと情報の掘り起こしのため、コロナ禍困難であったローラー訪問の再開が行われています。また、転入者支援の発掘に転入者交流会も昨年度に引き続き実施し、地域包括支援センターの存在と役割の周知に取り組まれています。

●圏域の介護支援専門員の資質向上と情報交換・情報共有のために、2ヶ月に1回「ケアマネほっと」を開催されています。医療職等も加わった事例検討会も実施されています。

●多職種の意見交換会で、医療職や他職種に、地域包括支援センターの関わり方や動き等の周知共有が行われ、地域包括支援センターの役割や業務への理解拡充につながられています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

●認知症カフェ本来の目的である、当事者の意欲向上、家族等の負担軽減・レスパイトの拡充を期待します。

●全ての取り組みにおいて、目的を明確にし、達成度・成果が確認できる内容の拡充を期待します。